

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	12-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Risks of major depressive disorder and anxiety disorders among Thais with alcohol use disorders and illicit drug use: findings from the 2008 Thai National Mental Health survey.</p> <p>タイの飲酒と違法ドラッグの使用における大うつ病性障害と不安障害のリスクについて: the 2008 Thai National Mental Health survey より</p>		
<b>執筆者</b>		
Suttajit S, Kittirattanapaiboon P, Junsirimongkol B, Likhitsathian S, Srisurapanont M.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2012 Dec;37(12):1395-9.		
<b>キーワード</b>		
タイ、抑うつ、不安障害、飲酒関連疾患		
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景:</b></p> <p>アジアの飲酒関連疾患と違法性のドラッグの使用について、不安障害とのリスクは十分に分かっていない。</p> <p><b>方法:</b></p> <p>2008年のタイのメンタルヘルス調査の対象者 17,140人を対象として、大うつ病、不安障害、飲酒関連疾患に Mini International Neuropsychiatric Interview (MINI)を用いて分類した。また過去一年の違法性薬物の使用についてインタビューした。ロジスティック回帰モデルを用いて (a) アルコール関連障害が大うつ病と不安障害に関連するかどうか、および (b) 違法性薬物がこれらの関連を増加させるかどうかを調査検討した。性別、年齢、結婚歴、領域、および教育レベルが有意に大うつ病と不安障害と関連することが見出され、回帰分析において考慮された。</p> <p><b>結果:</b></p> <p>一般集団と比較して、アルコール使用障害者は大うつ病性障害にかかるリスクは非常に高く、(男性 OR 2.49, 95%CI 1.76-3.53、女性 OR 4.09, 95%CI 2.31-7.26)で、不安障害もまた増加した(男性 OR 2.21, 95%CI 1.46-3.36、女性 OR 4.34, 95%CI 2.35-8.03)。アルコールと違法薬物を両方使用する群では大うつ病性障害(男性 OR 3.62, 95% CI 1.64-8.01、女性 OR 11.53, 95%CI 1.32-100.65)、不安障害 (男性 OR 3.20, 95%CI 1.36-7.51、女性 OR 13.10, 95%CI 1.48-115.60)でより高いリスクがみられた。</p> <p><b>結論:</b></p> <p>アルコール使用障害は大うつ病と不安障害と強く関連していた。違法薬物の使用が、特に女性では、これらの関連を高める上で重要な要因であった。抑うつ、不安障害、違法薬物使用のスクリーニングは、飲酒関連疾患患者において実施されるべきであろう。</p>		